

面会オンラインで

県内介護施設 ビデオ通話に対応

新型コロナウイルスの拡大を受け、山梨県内の介護施設でもビデオ通話などを使った「オンライン面会」が広がっている。感染防止対策として面会制限が長引く中、「顔を見て話ができる」と安心する「入所者や家族に好評だ。家族が県外に住む入所者も多く、足を運ぶなくても簡単に顔を見られる」と、感染症の状況にかかわらず継続して取り組む予定の施設も出ている。

〈杉原みずき〉

「遠方も便利」継続も

「おばあちゃん、元気そう さん(66)が声を掛けた。だね。介護老人保健施設NAC湯村(甲府市)の会議室。年11月以来となる面会が実際に置かれたタブレット端末。現「元気にしている様子がの前に白藤マサさん(94)が見よく分かった」と笑顔を見せると、画面越しに次男の昇た。マサさんも「会えなくて



タブレット端末越しに家族と面会する白藤マサさん(左)
＝甲府・NAC湯村

悲しかったけど、顔が見られてうれしい」と喜んだ。同施設は5月中旬からビデオ通話アプリを使った面会を始めた。2月下旬から入所者への面会を禁止、家族が顔を合わせられない状況が3カ月及び、入所者も不安を募らせる中、双方の安心感につなげようと導入した。

家族の絆深まる

タブレット端末は入所者がいる2・4階に各1台を用意。始めてから1週間で延べ約20人が利用した。約4割が県外の家族との通話という。

サポートが必要

堀内貴弘相談室課長は「平時でもなかなか来られない遠方の家族や多忙な方に気軽に使ってもらえている」と利点を説明。面会のために年数回来県していた昇さんは「オンラインがあれば、(独立している)子どもも含めて家族そろっておばあちゃんと面会できる機会が増える。家族の絆が深まると思う」と話す。

家庭にビデオ通話対応の機器がない家族や、機能を使えない場合への対応も各施設で工夫されている。4月末からオンライン面会を実施している介護老人福祉施設トリアス(甲府市)は、1階玄関にパソコンを設置し、入所者のい

る2、3階とつなぐ。

利用は事前申し込み制で、訪れた家族がパソコンを使って入所者と通話ができる仕組み。笛吹市の70代男性は、パソコンを借りて駐車場に止めた車の中で面会。入所する音楽好きの妻のため、カーステレオで音楽を流して聞かせた。トリアスでは5月中旬から、家庭のパソコンなど外部からもビデオ通話の接続ができるようにしている。だが男性は通話に必要な機器の在庫が販売店になく用意できなかったといい、「妻の喜んでくれる様子がうかがえて良かった」と振り返った。

他に社会福祉法人いきいき倶楽部(甲府市)も介護老人福祉施設コスモなどグループ計4施設でビデオ通話を導入している。